

Yale 大学での生活

Department of Immunobiology
Yale University School of Medicine

木村 好孝

(東京大学生産技術研究所
炎症・免疫制御学社会連携研究部門)

私は2018年5月から、Yale 大学の Ruslan Medzhitov 研究室にて留学をしております。ここではポスドク、大学院生、テクニシャン等総勢30人ほどが所属しており、同じ研究科の中でも規模の大きい研究室です。基本的にはそれぞれが独立して研究テーマを遂行していますが、Medzhitov 研究室の特色はその多様性にあると思います。免疫学を基盤としているものの、アレルギー、代謝、ホルモン、転写因子といったように様々な分野の研究が行われており、各メンバーが独自の専門性を持っているのでとても勉強になります。私はその中で唯一、がんの研究をしています。研究室内のセミナーは週に2回あり、一つは研究の進捗発表となります。もう一つがこれも Medzhitov 研究室の特色で、何か一つトピックを選び、その基本的知識や最新の知見について授業のような形で発表をし、皆でディスカッションします。ジャーナル発表はありません。自分の番が回ってきたときにはかなりの論文数を読まなければならない大変ですが、知識の幅を広げるのにととても役立っています。

Medzhitov 研究室は Immunobiology という研究科に属していますが、ここでは週に一度、外部から PI の方を呼び、セミナーをしてもらう日があります。いずれも著名な先生方ばかりで、話を聞かすたびにとても刺激を受けています。また、このセミナーとは別日に週に一度、Immunobiology に属しているポスドク、学生が研究科全体に向けて自分の進捗状況を発表します。他の研究室の人達がどのような研究を行っているか詳細に知ることができるため、ちょっとした実験の相談など、どの人に聞けばよいかすぐにわかり、とても助かっています。

Yale 大学のある Connecticut 州 New Haven は基本的には治安の良い町です。危険な場所はいくつかあるものの、そこに近づかなくても十分生活できます。あまり都会的ではない町ですが、広い公園があったり、Yale 関係者であれば無料で利用できる博物館があったりと、家族で来る場合でも住みやすい町だと思います。ピザがとても有名でピザ専門のレストランが沢山あるので、訪れた際にはぜひ試してみることをお勧めします。

その他、こちらに来て感じたことをいくつか書きたいと思います。

- 英語はできるに越したことはないが、流暢に話せなくても問題ない。それよりも内気になることなくできる限り話しかけ、会話を持つことが関係構築に大事。
- アメリカでは皆働く時間が短いと聞いていたが、少なくとも今の研究室ではそんなことは無い。夜遅くまで残る人や休日に実験している人もいる。ただ日本よりも on / off のメリハリがきちっとしている。
- 研究室間の隔たりが少ない。そもそも複数の研究室の実験スペースが一つのフロアで繋がっており、他の研究室メンバー同士での実験の相談などは日常茶飯事。ちょっとした試薬の貸し借りや機器の使用も当たり前になっている。

最後に、このような貴重な留学生活をサポートしていただきました上原記念生命科学財団の方々に深く御礼申し上げます。

(2019. 4. 25受領)